「ＩＣＥは権力乱用」

ＮＹ令状なしの立ち入り禁止

「ICEはニューヨークから出ていけ」と訴えてデモ行進する人たち＝1月30日、ニューヨーク（ロイター）

マムダニ氏、市民保護の市長令

米ニューヨークのマムダニ市長は6日、移民税関捜査局（ICE）などの連邦政府職員が裁判官の令状なしに市の所有地に立ち入ることを禁止する市長令に署名しました。トランプ政権が進める暴力的な移民取り締まりから、すべての市民を保護するとしています。

マムダニ氏は、さまざまな宗教の関係者を迎えて同日開いた会合で市長令を発表しました。ICE職員らに市民2人が相次いで殺害された中西部ミネアポリスなどを念頭に、「私たちはこの国の各地で毎日、良心を痛めつけられる残虐行為を目にしている」「ICEはならずもの機関だ。権力の乱用だ」と批判しました。

またICEはニューヨークでも活動していると注意喚起し、市長令は「市民を残虐な取り締まりから守る市の権力を強化するものだ」と語りました。

米メディアの報道によると、ICE捜査員らは米国各地で、公共施設や民家などに入って、不審な移民と判断した人を一方的に拘束しています。

市長令は、裁判官の令状を所持していない連邦政府の捜査員が駐車場、学校、病院など市の所有地やその他の公共スペースに立ち入ることを禁止します。また市当局が収集した市民のデータを連邦政府の移民当局と共有することも禁止します。

マムダニ氏は、移民が持つ権利を解説したチラシやパンフレットを合計約3万2000部配布する取り組みも開始しました。ICE職員が突然訪問してきた場合など緊急時の連絡先のほか、黙秘権や弁護士と連絡を取る権利があることなどを説明しています。10の言語で出版され、宗教関係者のつながりを生かして普及します。

民間団体「ニューヨーク移民連合」のムラド・アワウダ議長は米メディアに「この市は移民によって建設・維持されてきた。すべての市民が尊厳をもって安全に生活できる市へと近づける動きだ」と市長令を歓迎しました。

米ＩＣＥ難民条約違反か

パレスチナ人送還　ヨルダン川西岸へ

イスラエルと連携

【カイロ＝米沢博史】米国の移民税関捜査局（ICE）が拘束していたパレスチナ人をイスラエル当局と連携して占領下のヨルダン川西岸へ秘密裏に強制送還していたことが、イスラエルの独立系ニュースサイト「+972マガジン」と英紙ガーディアンの共同調査（5日発表）で明らかになりました。

調査報道によると、今年1月と2月に少なくとも2回、アリゾナ州のICEの送還拠点からパレスチナ人がプライベートジェットでテルアビブへ空輸されました。1月20日の便では8人が手首と足首を拘束された状態で移送され、到着後はイスラエル当局の管理下でヨルダン川西岸の軍事検問所まで連行されました。

送還された人の中には、米国に長年居住し、永住権を持つ人や、配偶者や子どもが米国内にいる人も含まれていました。2月2日にも送還が確認されましたが、詳細は不明です。

イスラエル紙ハーレツによると、送還は米国からの「異例の要請」をイスラエルの国内治安機関シンベトが受け入れて実施されました。

使用された航空機は、不動産開発会社「デザー・デベロップメント」のギル・デザー社長が所有するプライベートジェットです。デザー家はトランプ大統領と親密な関係にあり、大統領の選挙運動に多額の献金を行ってきたことで知られています。米当局は費用を明らかにしていませんが、ICEが高額でチャーターしたとみられます。

難民条約など国際法は、迫害や拷問の恐れがある領域への送還を禁じる原則を定めています。ヨルダン川西岸へのパレスチナ人の送還はこれに違反する可能性があります。

米国とイスラエルはいずれも、この件についてのコメントを拒否しています。

ロとの停戦協議提案

米「1週間以内」ウクライナは同意

ウクライナのゼレンスキー大統領は7日、米国がウクライナ、ロシアの停戦協議を1週間以内に米南部マイアミで行うことを提案したことを明らかにしました。米国が仲介するロシアとウクライナの高官協議が4、5の両日、アラブ首長国連邦のアブダビで行われた際に提案され、ウクライナは同意したといいます。ロイター通信が報じました。

またゼレンスキー氏は、ロシアが6日夜から7日未明にかけて、ウクライナの発電・送電施設を狙って400機以上の無人機と約40発のミサイルによる大規模攻撃を行ったと非難しました。

ゼレンスキー氏は「ロシアは毎日、真の外交を選択できるが、新たな攻撃を選んでいる」とX（旧ツイッター）に投稿。「ロシアがウクライナに圧力をかける手段として寒さを利用する能力を奪わねばならない」と訴えました。

ウクライナのシュミハリ・エネルギー相によると、攻撃で西部の火力発電所2カ所と変電所や基幹的送電線が損害を受けました。シュミハリ氏は「ロシアの犯罪者らは、ウクライナのエネルギーシステムへの新たな大規模攻撃を行った」とテレグラムに投稿しました。

今後数日間、気温が氷点下14度まで低下すると予想されるなかで、攻撃が行われました。

昨年秋以来、ロシアは、ウクライナの電力系統やエネルギーインフラへの攻撃を強化。ウクライナ全土で停電が頻発してきました。

記者大量解雇　CEOが辞任

ワシントン・ポスト

【ワシントン＝時事】米有力紙ワシントン・ポストのウィリアム・ルイス最高経営責任者（CEO）は7日、辞任を表明しました。従業員宛ての電子メールを、同紙記者がSNSで公表しました。同紙は4日、記者の大量解雇を伴うリストラに踏み切り、波紋が広がっています。

ルイスCEOは「ワシントン・ポストにおける変化の2年間を受け、退くのにふさわしい時期だ」と述べました。同紙のリストラ策によると、約800人の記者職のうち300人以上を解雇。運動部の廃止や国際報道の縮小などを行います。

首都ワシントンに本社を置き、米国を代表する新聞の一つであるワシントン・ポストは近年、発行部数の減少に見舞われており、2013年にはインターネット通販最大手アマゾン・ドット・コム創業者のジェフ・ベゾス氏が買収しました。

ワシントン・ポストの従業員組合は7日、SNSで、「ルイス氏の辞任は遅過ぎた。彼のレガシーは偉大な米報道機関の破壊を試みたことだ」と批判。ベゾス氏に対し、「解雇の撤回か売却」をすぐに行うよう求めました。

石油配給と生活保護計画発表

キューバ政府　米政権の供給遮断受け

トランプ米政権がキューバへの石油供給を遮断しようとするなか、キューバ政府は6日、石油を配給し、市民生活に欠かせない「エッセンシャル・サービス」を保護する計画の詳細を明らかにしました。

トランプ米大統領が、キューバに石油を輸出する国からの輸入品に関税を課すと脅して以来、キューバ政府が配給措置を発表するのは初めてです。

キューバ政府の閣僚らは、今回の措置について、農業生産、教育、水の供給、医療、防衛を含む主要部門への石油供給を確保するためのものだと語りました。

石油不足が見込まれるなか、車を待つ人たち＝6日、ハバナ（ロイター）

ペレスオリバ外国貿易・投資相は、テレビのニュース番組で「この課題をわれわれは必ず克服する。われわれは崩壊しない」と述べました。

ペレスオリバ氏によると、葉巻の生産を含む輸出部門や観光業向けに石油を供給し、市民生活の基本となる計画の資金を確保するのに必要な外貨を得ます。

同氏は「収入がなければ、この状況を克服できない」と語りました。

国内・国際の航空便が直ちに影響を受けることはありませんが、石油の供給が通常に戻るまでは、車の運転手らはガソリンスタンドで供給縮小を経験するかもしれないといいます。

ペレスオリバ氏は、需要に応じるため20万㌧の土地でコメを生産する計画も発表しました。しかし石油不足によって、灌漑（かんがい）用に再生可能エネルギーをいっそう活用したり、耕作のために家畜を活用したりすることになるとの見通しを示しました。

同じニュース番組に出演したトルヒジョ教育相は、乳児保育施設や小学校は運営を続け、対面で対応するものの、中等・高等の教育機関はオンラインとの混合型で運営すると述べました。（ロイター）

異常気象で豪雨被害

スペイン・ポルトガル

南欧のスペインとポルトガルではここ数週間、異常気象による豪雨と暴風が相次ぎ、農地が冠水し、多額の被害が出ています。

両国では、豪雨、雷、雪、強風を伴う嵐が連続し、さらに7日に新たな嵐「マルタ」が到来しました。

スペイン北部のエルピコ山の山道では7日、除雪車が20㍍転落し運転手が死亡。ポルトガル中部カンポマイオールでは同日、46歳の男性が川で溺死しました。先週到来した嵐「レオナルド」によって5人の死者が出ています。

スペイン南部アンダルシア地方では1万1000人以上が避難しており、170に及ぶ道路が封鎖され、ポルトガルでは鉄道が混乱に陥っています。

ポルトガルの農業・漁業省は6日、嵐による農業・森林分野の損害が、約75億㌦（約1兆3900億円）に達するとの予想を発表しました。

スペインの農業者団体「農業牧畜組織調整機構（COAG）」のミゲル・アンヘル氏は7日、地元テレビ局に対し、「ブロッコリー、ニンジン、カリフラワーなどの作物が冠水した。何千㌶もの畑が水浸しだ。まさに自然災害だ」と述べ、被害額は数百万㌦になり、政府に支援を求めると語りました。（ロイター）

嵐で水没した通りを歩くボランティア＝5日、ポルトガル南部アルカセルドサル（ロイター）

独声優　ネトフリ吹き替え拒否

ＡＩ訓練利用に警戒

【ベルリン＝時事】ドイツの声優たちが米動画配信大手ネットフリックスの吹き替え版への出演を拒否し、波紋を呼んでいます。人工知能（AI）の訓練に自らの声の利用を認めるよう求める出演契約に反発。AIの音声に仕事が奪われかねないことから、声優側は声の提供が「自滅を招く」（独メディア）と警戒しています。

報道によると、出演契約では、AIの訓練に関する声優への対価は、訓練後にAIの音声が作品に使用されれば支払われます。ただAIが誰の声を基にしたのか、外部からの特定は困難。声優組合は「われわれはアーティストであり、（AIの）データソースではない」と徹底抗戦の構えです。

出演拒否により、吹き替え制作に遅れが生じ始めています。ネットフリックスは、ドイツ語は当面字幕のみになる可能性があるとし、声優団体との協議に応じる意向です。

近年の動画配信サービスの普及に伴い、吹き替えの需要は拡大。一方、原作の俳優の声を学習したAIが、他の言語で音声を生成する試みも進んでいます。

フラッシュ

■印マレーシア協力強化へ

マレーシアのアンワル首相は8日、同国を訪問したインドのモディ首相と会談しました。両首脳は、貿易関係を強化し、半導体、防衛、医療、観光などの分野で協力を模索していくことを確認。両国間の協力に関する11件の合意文書を交わしました。（ロイター）

■北朝鮮、2月下旬党大会

【ソウル＝時事】北朝鮮の朝鮮中央通信は8日、朝鮮労働党政治局会議が7日に行われ、第9回党大会を2月下旬に平壌で開くことを決定したと伝えました。新たな国防計画やトランプ米大統領への対応など外交路線がどのように示されるかが焦点になります。

■南ア在コンゴ国連軍撤退

南アフリカのラマポーザ大統領は8日、コンゴ（旧ザイール）に展開している国連平和維持軍から自国軍を撤退させると表明しました。ラマポーザ氏はグテレス国連事務総長に通知済みだとし、南ア軍の「再編成」に必要な措置だったとしています。（ロイター）

トランプ氏「悪影響」5割超

6カ国世論調査

公益財団法人「新聞通信調査会」（西沢豊理事長）は7日、昨年11～12月に世界6カ国で行った世論調査の結果を発表しました。それによると、トランプ米大統領について、「世界に悪い影響を与えている」「どちらかと言えば悪い影響を与えている」と回答した合計が全ての国で半数を上回りました。韓国の73・7％が最も多く、フランス73・0％、タイ71・0％、英国62・3％、米国57・9％、ロシア52・2％と続きました。

また、米国を除く5カ国では、7割以上がトランプ氏のような人に自国の指導者になってほしくないと答えました。ロシアが最も多く91・0％で、米国は57・9％でした。同調査会担当者は「同盟国を軽視する対外政策など、トランプ氏の強硬な姿勢が影響している」と分析しました。

一方、対日好感度に関しては、韓国で「好感が持てる」との回答が前年比15・8㌽増の56・4％と、2015年の調査開始以来、初めて半数を超え過去最高となりました。

調査は電話や対面、オンラインで実施。各国でそれぞれ約1000人から回答を得ました。（時事）

燃える花の名前

吉川トリコ・作

第2章　「貞順」（74）

この一年で貞順の身長はずいぶん伸びた。そうかといって春子の着物は、貞順が着るにはまだ丈が長かった。生成りの韓服を着た貞順が近くの川辺で洗濯物に砧を打っていたり、土手や草むらで野草を摘んでいると、周囲の視線をいやでも集めることになった。好奇と憐れみと蔑みがまだらになったその視線から逃れるには、家のなかへ逃げ込むよりほかになかった。

商信はといえば、こちらに来てから揃えた作業着を家でも着ていたが、下関まで買い出しにいくときや、在福と連れ立って飲み屋に出かけるときには、いつぞやの灰色の背広に袖を通した。ほかには韓服しか持っていなかったので、いつも決まってそればかりだった。おかげでせっかくの一張羅がくたびれて、あちこちぼろが出はじめている。

秋も深まってきたある日の夕暮れ、基彦をおんぶ紐で背中にくくりつけて春子のいる飯場に向かう途中で、貞順は哲男と出くわした。ボタ山の陰で膝を抱えていた哲男に声をかけると、真っ赤に濡れた目をあげてこちらを見た。炭塵で汚れた頬に涙の筋ができているのを見て、

「どうしたの？　どっか痛むの？」

驚いた貞順が尋ねると、うるさい、と哲男は日本語で答えた。このごろ哲男は、貞順がなにを話しかけても、うるさい、うるさい、うるさいの一辺倒だったから、いやでも覚えてしまった。

「どうしたのかって訊いただけなのに、うるさいってなによ。ほら、これで顔を拭きなさい」

貞順が差し出した手拭いを乱暴に振りはらうと、なにごとか吐き捨てるように哲男は言い、その場から走り去った。日本語ではあったが、哲男がなにを言っているのか、貞順にはなんとなく理解できた。よくそんな朝鮮人丸出しの格好で恥ずかしげもなく外を歩けたもんだよな。ヌナといっしょにいたら俺まで朝鮮人に思われるだろ。もう二度と、外にいるときに俺に話しかけるな。

なにをバカみたいなことを言ってんだか、と貞順は呆れた。朝鮮人に思われるもなにも、朝鮮人は朝鮮人ではないか。かつて在福が言っていたことをそのままなぞるように思い出したら、笑いさえこみあげてきた。